

かとう かつあき
加藤 克明 議員自転車交通反則通告制度の
周知・啓発について

問 昨年度、吉川市内で自転車関連死亡事故が3件、高齢者関連死亡事故が5件発生。全国的に自転車事故は、16歳～18歳が突出して多い状況。今後、運転免許証を自主返納した高齢者が自転車を利用する機会も増加すると考える。市民への周知・啓発はどう行っていますか。

答 街頭キャンペーンや小学校での交通安全教室、老人センターでの講話、広報誌、SNS等を活用して周知・啓発に努めています。

問 普段から自転車しか乗らない方と自動車しか乗らない方との認識の違いから事故が誘発されることも考えられます。家族団らんの時や自動車で出かけた時に、読み返しが出来る冊子やガイドブック、また市独自の「自転車安全ガイド」を作成しては。

答 現在のところ作成する考えはありませんがガイドブックを配布する事も必要ですし、これまでの啓発も必要。警視庁のHPで閲覧可能ですし、「自転車安全5則」のチラシが警察署で配布されています。警視庁、埼玉県警等の情報も取り入れながら、引き続き啓発に努めます。

いがらし えちこ
五十嵐 恵千子 議員

防犯体制のさらなる充実を



問 令和7年犯罪白書に「刑法犯の認知件数は、令和4年以降増加し、情勢は引き続き予断を許さない状況にある」とある。①市内の特殊詐欺発生件数と被害額は。②匿名・流動型犯罪（トクリュウ）を防止する本市の取り組みは。③本市では犯罪防止等の情報がタイムリーに発信されているが、犯罪防止や相談先の情報が必要となった時に何時でも検索できるよう「防犯」や「消費生活相談」に関する市HPを充実すべきでは。見解を伺う。

答 ①令和7年1月～12月の特殊詐欺発生件数は、オレオレ詐欺8件、還付金詐欺1件、キャッシュカード詐欺2件、被害総額は3,309万6,364円。②防災行政無線や安全安心メール、SNSを活用し速やかに注意喚起を行っている。また、小中学校では非行防止教室を開催し、トクリュウ犯罪についても闇バイトの危険性を学習する中で取り扱っている。③市のHP上の掲載内容について整理する必要があると思っている。警察庁や埼玉県警のHPと連携させ、吉川市のHPを見れば防犯等について分かるような内容となるよう検討したい。

よしかわ としゆき
吉川 敏幸 議員犯罪インフラ化する
ヤードの徹底管理を

問 国内の一部ヤード内での盗難車の保管や解体、不正輸出など、ヤードが犯罪インフラ化しているとの指摘がある。昨年施行された県条例への届出状況、各関係機関との連携状況を伺う。

答 県条例の実効性については、経過を注視していく。県からは県条例届出対象の市内17ヶ所の全てにおいて届出されていると伺っている。また、ここ数年、県や県警などが必要と判断した施設を毎年平均5ヶ所程度だがパトロールをしている。

外国人材の適正な受入れと
不法就労を許さぬ対策を

問 出入国在留管理庁の資料によれば、令和7年5月14日時点において、所在不明となっている外国人数は令和4、5、6年と毎年3,000人弱となっている。市内において失踪事例はあるのか。

答 令和7年の埼玉県内の出入国管理及び難民認定法の違反の検挙数は351人、うち技能実習生は186人とのデータがある。市内の人数等の詳細は警察から非公表と伺っている。

いいじま まさよし
飯島 正義 議員住宅改修費補助制度の周知方法
と制度内容の見直しを

問 吉川市住宅改修費補助制度の利用は年1回までとなっています。制度の周知方法や受付期間の延長、予算の拡充を求めて改善策を伺います。

答 広報よしかわや市ホームページなど様々な手段で、市民の皆さんにご利用いただいています。受付期間を延長することで、工事期間が短くなっています。各年度の申し込みや補助金を交付した額のばらつきがあるため注視する必要があります。予算の拡充は考えていません。

吉川市平和都市宣言の塔設置を

問 吉川市平和都市宣言の理念を広く市民や来訪者に周知し、次世代へ平和の尊さを継承するため、吉川美南駅または吉川駅の駅前広場などに塔の設置を求める声が寄せられています。市の考えを伺います。

答 すでに平和の象徴である鳩をモチーフにした平和の塔が市民交流センターおあしすフラワースークル内に設置されていることから、市として、駅前に新たな塔を設置する考えはありません。